

大相撲と地方

上之郷 奈穂（東北大学大学院・院生）

【目次】

はじめに

1、日本各地で見られた相撲

2、力士と故郷

（1）力士の表象する「地元の代表制」

（2）地元力士を応援する後援会

3、大相撲と慰問

（1）復興土俵入り

（2）戦時中の慰問

（3）相撲部屋が取り組む慰問活動

おわりに

はじめに

日本の国技とされる相撲は、日本相撲協会が主催する大相撲をはじめ、スポーツとして男女共に行う相撲や、神事としての相撲といったように、その在り様はさまざまである。本稿では様々な存在する相撲のうち、日本相撲協会が主催する大相撲に着目する。大相撲というと東京、大阪、名古屋、福岡といった大都市圏で行われる本場所が広く知られるところであるが、本場所以外にも様々な地方において大相撲の活動は行われている。本稿では、本場所が開催される場所以外のほかの地域において、どのような大相撲の活動があったのかや、大相撲の力士が輩出された地域では、その力士とどのような関係性を維持しているかを明らかにする。

本稿は大きく3つの章で構成されている。第1章では、「日本各地で見られた相撲」とし、過去に各地で行われていた相撲や、どのような場面において相撲が行われてきたか、といった点に焦点を当てる。第2章では、「力士と故郷」とし、力士と出身地が、角界入り後どのような関係を保っているかを論じる。第3章「大相撲と慰問」では、地方で行われる慰問活動について、東日本大震災を受けての復興土俵入り、戦時中の満州での皇軍慰問、相撲部屋が行っている慰問活動に着目し、広く慰問について論じる。

1、日本各地で見られた相撲

「相撲」と一口に言っても、様々な相撲の在り方が存在する。体と体のぶつかり合いをもって勝敗を決めるという伝統的な行為は世界各地に見受けられる。寒川編の『相撲の人類学』では、世界各地の伝統的な相撲の競技を紹介しており、それらが神事として行われたり、優劣をつけるための手段として用いられたりしていることが広く述べられている。

日本でも相撲節会、勸進相撲というように古くから相撲が行われてきた。神事として相撲が行われている風習は今でも残っており、『相撲大辞典』において日本各地の神事相撲が紹介されている。

現在のような興行相撲が確立したのは近世とされている。風見（2002）によると、江戸時代の末期には、全国各地に様々な相撲の団体が存在しており、それらは地域名をとって「〇〇相撲」と呼ばれていた。東京相撲、大阪相撲、京都相撲や、四角土俵が特徴の南部相撲が挙げられる。南部相撲とは東北地方で行われていた相撲である。しかし次第に相撲の団体数は減少していき、昭和2年に東京相撲と大阪相撲が合併して大日本相撲協会が設立された。また、国内には女性が土俵に上がる相撲も存在する。「女人禁制」とされる大相撲であるが、各地に様々な女相撲が存在しているのも事実である。

2、力士と故郷

（1）力士の表象する「地元の代表制」

大相撲の主役ともいえる力士は、日本全国から集まってくる。そして近年では国外出身の力士も多くみられるようになってきた。田舎相撲で優勝するような少年や、体の大きい少年、相撲の少年団や学校の相撲部に所属する将来有望な男子が相撲部屋からスカウトされたり、後援会に所属する人から紹介されたりして相撲部屋に入門する。もちろんそれ以外の入門の在り方もあるが、力士数が減少している現在において、相撲部屋は力士の確保に必死であることは確かである。ひとたび相撲部屋に入門すれば、力士は家元を離れて相撲部屋での生活が始まる。同じ部屋に所属する力士たちと共同で生活をしながら、角界の慣習を身に染み込ませ稽古を積んでいく。

角界入りした力士にはそれぞれしこ名が与えられる。しこ名は力士の出身地にあやかって名前が付けられることが多く、地名や、郷土にある川や山の名前からしこ名が付けられる風習がある。また、本場所の取組で名前を呼びあげられる際、同時に力士の出身地も呼びあげられる。どんなに番付が上がっても、取組の際には必ず出身地が呼びあげられるのである。力士が郷土の代表であるようにも見て取れるその風習は、大相撲と地方の密な関わり合い

を体現しているのではないだろうか。

地元から関取が誕生した、もしくは、地元から優勝力士が出たともなると、そのゆかりの土地では大きく取り上げられる。2018年の名古屋場所で優勝した御嶽海関は長野県の出身であるが、地元紙では特別紙面が設けられ、その優勝を大きく報じていた。また出世した力士だけでなく、本場所の取組を報道するニュース番組では地元出身力士の取組の結果を報道している。現役の力士に限らず、かつて地元から輩出された横綱や大関といった力士は、その活躍をたたえて出身地に碑が作られる。このような碑は日本各地に存在している。

地元から何か偉業を成し遂げた人物が輩出された場合、その人物をたたえるという行為は大相撲に限らず様々な分野で見られる。メディアにより大きく取り上げられたり、功績をたたえる記念碑が作られたりと、その方法の一つではない。しかし、碑を作るとなるとそれなりの費用が掛かるが、一過性の報道とは異なり長い間たたずむことによるメッセージ性もあると考えられる。

(2) 地元力士を応援する後援会

大相撲における後援会は、まず相撲部屋の活動を支援するものがあげられる。しかし部屋という組織に対する後援会だけではなく、特定の力士や行司といった個人に対しての後援会も存在している。

力士を支援するのは、会員から会費を徴収し、それぞれ役割が決まっているような組織として成立した後援会だけではなく、「組織」という型にはまっていないながらも力士を応援する人々の集まりもある。巡業や地方場所の開催に伴い力士が地元滞留している期間に合わせ、力士を囲んでの激励会が開催される例がある。そこには力士の親族や、家族の会社の同僚といった面々が集まる。筆者が調査を行ったものは、長崎県〇市出身の力士を囲んでの集まりだった。そこには力士と同じ部屋に所属する親方が会を取り持ち、力士の実家で経営している飲食店が会場となり激励会が開かれた。なお、この激励会を取り持った親方自身も長崎県〇市の出身であり、親方の家族や知り合いも激励会に参加していた。このような集まりは不定期であり、また当の力士はまだ関取ではない。組織だった後援会ではないながらも、力士の故郷の人々にとってはこの激励会には、力士が家元を離れて年に数回しか地元に戻らなくとも、「地元は応援を続けている」というメッセージ性が込められた集いになっていると考えられる。

3、大相撲と慰問

大相撲では、年に6場所ある本場所や、各地を巡回する巡業のほかにも様々な活動が行われている。そのうちの1つに、慰問活動が挙げられる。本節では、過去に相撲協会が行ってきた慰問活動と、相撲部屋が主催する慰問活動を取り上げる。相撲協会主催の慰問活動は、1つは復興土俵入り、そしてもう1つが戦時中に行われていた皇軍慰問を取り上げる。これらの慰問活動が行われる場所は、「被災地」と「戦地」という、非日常的な空間であった。

(1) 復興土俵入り

2011年に発生した東日本大震災を受けて、相撲協会は被災地での慰問活動を行ってきた。これまでの慰問活動の開催日や開催地などをまとめたものが以下の表(表1)である。表からもわかる通り、一度慰問活動を行った場所で再度慰問活動が行われるということではなく、毎年開催場所を変えながら継続的に慰問活動が行われている。震災発生から2018年までに慰問活動は19回行われており、特に震災のあった2011年には計10か所にわたって行われた。活動の内容は土俵入りのほか、炊き出しも行われた。2011年の慰問活動は同日に2か所で行われているが、これは参加部隊を2つに分けて行われたものである。このように7年にわたり継続的に行われている慰問活動であるが、回数を重ねるにつれてその内容が変化していることがわかる。その変化は大きく2つ挙げられると考える。まず、①慰問活動の担い手が変化している、というのが挙げられる。大災害に見舞われ、どのような復興支援ができるのか相撲協会は暗中模索の中で慰問活動が進められた。2011年は相撲協会が企業に依頼した形での復興土俵入りであったが、翌2012年からは、これまで協会が培ってきた巡業のノウハウを活用できるのではないかということで、相撲協会が主体となって土俵入りが行われるようになった。また、2つ目の変化として、②慰問活動が行われる場所が変化してきているということが読み取れる。震災のあった年には、避難所となっている体育館や学校といった、既存の施設での土俵入りが多く見られたのに対し、震災から5年目の年に行われた宮城県名取市閑上地区での復興土俵入りは、震災を受けて建立された慰霊碑¹の前で行われ、また翌2017年は会場が小学校ではあるが、震災で全壊した校舎が新しく建てられ、その完成したばかりの校舎の体育館で土俵入

¹ この慰霊碑は2014年の8月11日に完成したものである。(名取市ホームページ：http://www.city.natori.miyagi.jp/soshiki/soumu/seisaku/node_27436/node_30103 参照) したがって慰霊碑完成からちょうど2年後の時期に復興土俵入りが行われたこととなる。

りが行われた。また、2018年には宮城県仙台市若林区の市営住宅で行われたが、この住宅は震災後被災者の住む場所として建設されたものである。このように、震災から数年を経ると震災後に新しく建てられた建物や、震災にまつわる慰霊碑を会場としての慰問が多くなってきた。

表 1：東日本大震災巡を受けての慰問の開催時期、開催場所

番号	開催年月日	開催地	会場	慰霊碑訪問等	来場者数
1	2011年6月4日	岩手県下閉伊郡山田町	山田南小学校		2000
2	2011年6月4日	岩手県上閉伊郡大槌町	ふれあい運動公園		700～800
3	2011年6月5日	岩手県大船渡市	加茂公園		1300
4	2011年6月5日	岩手県陸前高田市	高田小学校		2000
5	2011年6月6日	宮城県本吉郡南三陸町	志津川中学校		1200
6	2011年6月6日	宮城県気仙沼市	面瀬中学校		700
7	2011年6月7日	宮城県牡鹿郡女川町	総合体育館		800
8	2011年6月7日	宮城県仙台市宮城野区	宮城野体育館		600
9	2011年6月8日	宮城県亶理郡山本町	中央公民館		800
10	2011年6月8日	福島県相馬郡新地町	町役場前		1800
11	2012年8月7日	宮城県石巻市	石巻市総合体育館		
12	2012年8月8日	岩手県宮古市	宮古市民総合体育館		
13	2013年8月5日	福島県相馬市	スポーツアリーナそうま		
14	2013年8月5日	福島県南相馬市	南相馬市スポーツセンター		
15	2014年8月7日	福島県いわき市	いわき市立総合体育館		
16	2015年4月20日	茨城県ひたちなか市	ひたちなか市立総合体育館		
17	2016年8月12日	宮城県名取市	関上地区東日本大震災慰霊碑前	慰霊碑前での土俵入り	1000
18	2017年8月14日	岩手県釜石市	釜石市立鶴住居小学校		
19	2018年8月13日	宮城県仙台市若林区	荒井東市営住宅	慰霊碑訪問・献花・震災遺構の荒浜小学校を訪問	

※日本相撲協会公式サイトをもとに筆者作成

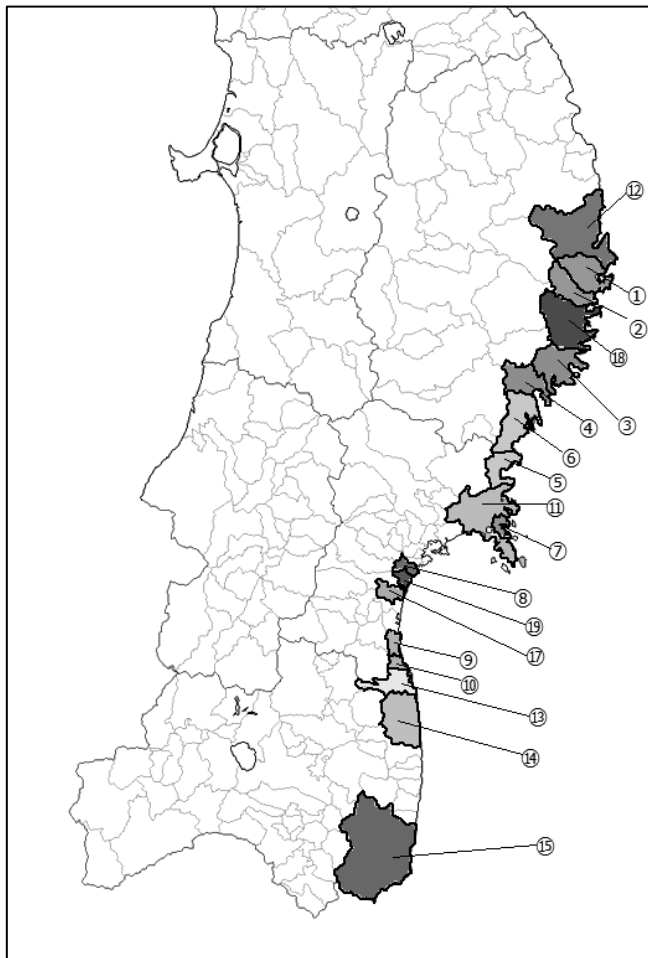


図 2 : 東日本大震災を受けて慰問活動が行われた地域

※Craft MAP (<http://www.craftmap.box-i.net/>) をもとに筆者作成

筆者は 2017 年に行われた釜石市での復興土俵入り、2018 年に行われた仙台市での復興土俵入りでの調査を行った。特に 2018 年の仙台市で行われた復興土俵入りでは、担当となっている親方の協力のもと、準備段階からの調査を行うことができた。復興土俵入りは興行ではなく慰問として行われるため、観覧料は発生しない。それもあってか、大々的な宣伝は行われない。この 2

つの慰問では相撲協会から総勢 50 名ほどが参加し、費用は協会持ちであった。

これまで東日本大震災を受けての復興土俵入りは 19 回箇所で行われてきた。災害を受けての復興支援はこのほかにも豪雨の被災地でも行われているが、7年にわたり継続的に行われているものは例を見ない。

以下、釜石市で行われた復興土俵入り、仙台市で行われた復興土俵入りの事例を見ていく。

● 震災後新しく設立された小学校での土俵入り

2017 年に行われた釜石市での復興土俵入りは、鶴住居小学校で行われた。小学校が会場になったということもあり、来場者のなかには子どもが多く見られた。当初は小学校の校庭で行われる予定であったが、雨天のため体育館での開催となった。

当日の流れは、まずは釜石駅前に設置された慰霊碑の鐘を突き、そこからバスで会場まで移動するというものだった。直前まで横綱が来るという情報を知らず、当日慌てて駆けつけた人も多く見られた。中には、仕事を抜け出してきたであろう恰好の人も見受けられた。

鶴住居小学校まで移動し、鶴住居神社での参拝のあと、小学校の体育館での復興土俵入りという流れであった。

● 復興住宅で行われる土俵入り

2018 年に行われた仙台市での復興土俵入りは、復興住宅の広場で行われた。また、土俵入りが行われる前には居住禁止区域となっている場所にある慰霊碑で黙祷が行われ、震災遺構となっている荒浜小学校での見学が行われた。

震災から 7 年目ともなると、津波の被害があった場所は更地になっていたり、防波堤が建設されていたりして整備が進んでいたものの、居住禁止区域となっていたためひとけがなかった。

毎年開催地が変わる復興土俵入りでは、下見が入念に行われる。大勢の観客が見るスペースを確保できるか、土俵入りをするのに十分なスペースがあるか、どこで行うのが復興の象徴として映えるか、といったことが考慮される。

荒井東市営住宅での土俵入りでは、周囲を 2 棟の集合住宅に囲まれた広場で行われた。土俵入りの背景は鉄筋コンクリートの無機質な建物であった。それを見た相撲協会の復興土俵入り担当の親方は、もう少し見栄えがするような形にしたいということで、この団地で行われた七夕まつりの時に使用した七夕飾りを飾ることになった（写真 1 参照）。



写真 1：「復興土俵入」と書かれた幕の両脇にこの市営住宅で行われた七夕まつりに使われた七夕飾りが飾られている

被災地で大相撲の復興土俵入りが行われたからといって、すぐに被災地の状態が改善されるということはない。しかし、土俵入りは復興を押し進めるものではなく、神事としての側面を持つ大相撲が復興を祈願するという意味合いで行われたものであった。

(2) 戦時中の慰問

戦時には、大相撲の舞台は国内にとどまらず大陸でも行われた。戦地に力士たちが赴いて慰問活動が行われた。このときの慰問は「皇軍慰問」と呼ばれる。以下、胎中（2016：135 頁）によると、皇軍慰問とは「戦時期の日本社会で広く行われた日本軍の駐屯地や占領地への民間人の慰問活動」を指す。また、大相撲の皇軍慰問は「37年の満朝巡業から本格化し、その後、1943年（昭和 18）まで、毎年実施された」としている。国外ということもあり、期間は3か月に及ぶこともあった。皇軍慰問は軍部からの要請にこたえるという形をとっており、そうすることで相撲協会が自身の地位を維持することができた。しかし大相撲が慰問に来ることにより現地の兵士に想起させたの

は「強国としての母国だけではなく、時として故郷そのものだったのではないか」と結論づけている。

このように、大相撲の慰問活動は国内にとどまらず、海を越えた大陸でも行われていた。それは、胎中（2011：131 頁）の言うように「日本精神の鼓吹」をはかるものであったとしても、現地の人々にはまた違った意味合いがあったのではないかと考えられる。

（3）相撲部屋が取り組む慰問活動

相撲協会が実施する慰問活動のほかに、相撲部屋が行う慰問活動もある。協会が実施するものに比べると規模は小さくなるが、同じ場所で継続して行いやすく、また慰問先の人々と顔なじみになりやすいという特徴が挙げられる。筆者が調査を行ったのは出羽海部屋における夏合宿での慰問活動である。出羽海部屋の夏合宿が行われるのは千葉県香取郡東庄町笹川地区で、千葉県の北東部に位置している。笹川駅近くの諏訪神社にある土俵が稽古場として使われ、笹川地区の公民館や青年館が宿舎として使われる。笹川地区と出羽海部屋は、笹川地区のお祭りである秋季大祭に参加するなど、深い交流がある。合宿期間中には、笹川付近の様々な場所で慰問活動が行われるが、そのうち東庄町の隣に位置する銚子市で行われる慰問活動をここで紹介する。慰問活動に参加する力士はたいてい3名ほどである。慰問は力士たちが稽古を終え、シャワーを浴びたり食事を済ませたりした後に行われる。銚子市での慰問活動が行われるようになったいきさつには、笹川地区に住む人で出羽海部屋の合宿にも積極的に関わっていたKさんと、銚子市に在住のSさんとの交流が最初に挙げられる。Sさんは銚子市で観光ボランティアをしており、とても活動的な人物である。Sさんは銚子市内の病院に通っており、その病院の院長に笹川合宿で来ている力士たちを呼んで慰問活動に来てもらったらどうかということを提案した。SさんとKさんはもともと交流があったため、笹川地区に出羽海部屋が合宿に来ているということを知っていたのである。これがきっかけとなり、病院の院長が経営しているグループホームに出羽海部屋が慰問に来ることとなった。このように、地域住民同士の緩やかなつながりがあり、そこから相撲部屋の慰問活動が始まった。銚子市でのグループホームへの慰問活動は3年程連続して行われており、2018年の合宿ではグループホームの院長が笹川地区での合宿の稽古を初めて見に来ることとなった。院長は来年もぜひ合宿に足を運びたいとしており、ここから新たな相撲部屋への支援が行われる兆しとも読み取ることができた。

おわりに

本稿では、①各地で行われてきた相撲、②力士と故郷の関係性、③慰問活動、という3つの視点から、大相撲と地方を眺めてきた。現在大相撲は東京の両国をはじめとし、本場所の開催地となる大阪、名古屋、福岡といった大都市圏で大変な賑わいを見せている。その一方で、かつて日本には地方に様座な相撲の興行団体が存在しており、現在でも地方での巡業や慰問活動が行われている。また、相撲取りが輩出された故郷では、その力士が出世して広く名が知れているかどうかにかかわらず、力士を応援しようとする後援会が存在していた。このように大相撲が今日に至るまで継承されてきたこと背景には、大都市圏でのみ享受されたものではなく、日本各地、さらには国外においてまで広く活動が行われてきたことによる影響が大きいのではないかと考えられる。

最後に、本稿執筆に当たりお世話になった調査協力者、指導教員に感謝の意を表したい。

【参考文献】

- 風見明（2002）『相撲、国技となる』大修館書店
金指基（2002）『相撲大辞典』現代書館
寒川恒夫（1995）『相撲の人類学』大修館書店
胎中千鶴（2011）「『外地』と相撲」『目白大学人文学研究7』
胎中千鶴（2016）「相撲と戦場一日中戦争期の相撲と兵士」『目白大学人文学研究12』

【参考 URL】

- 名取市公式ホームページ
http://www.city.natori.miyagi.jp/soshiki/soumu/seisaku/node_27436/node_30103
最終アクセス（2018年12月1日）
日本相撲協会公式ホームページ
<http://www.sumo.or.jp/>
最終アクセス（2019年2月1日）
Craft MAP <http://www.craftmap.box-i.net/>
最終アクセス（2019年2月1日）